

# 石山・芸術の森地域 石山部会 ニュース

石山・芸術の森地域では、平成 26 年度に「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」を設置し、それ以降、地域の 4 小学校を対象に学校規模適正化についての検討を進めてきました。また、平成 27 年度からは「部会制」を導入し、「石山部会（石山小学校・石山南小学校）」と「芸術の森部会（常盤小学校・石山東小学校）」に分かれて、より具体的な検討を進めています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

## 第 10 回石山部会について

平成 29 年 3 月 7 日（火曜日）午後 1 時 30 分から、石山まちづくりセンターで第 10 回石山部会を開催し、校名案の検討を行いました。また、まちづくり政策局都市計画部から、石山南小学校の跡活用に係る基礎調査についての中間報告がありました。

## 地域の皆さまから寄せられた意見（報告）

昨年 12 月に開催した第 9 回部会以降、地域の皆さまから寄せられたご意見について、事務局から 4 件の報告がありました。

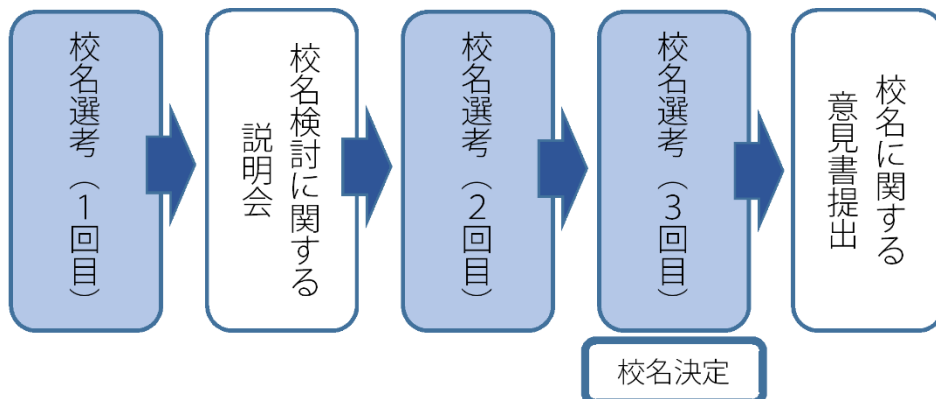
- 卒業生や地域の学校に対する思いは理解できるが、それはどちらの学校も同じ気持ちだと思う。新しい校名にするというのは以前から決まっていたことなのに、現校名に関して議論があったことは悲しい。校名はこれから新設校に通う子どもたちのために検討を進めてほしい。例えば「石山〇〇小学校」などの名前がいいのではないかと。（平成 29 年 1 月 電話）
- 学校にはたくさんの寄贈品がある。そういった物品をデジタル化して保存し、現物を廃棄することがあると思う。そういった場合はきちんと元の持ち主に連絡をとり、返却するなど、責任を持って対応してほしい。
- 石山小学校の敷地に校舎が建つのがだから校名はそのままだと思っていた。（平成 29 年 2 月 電話）
- 児童会館が新設校に複合化されることによって、運動や活動の場が減ってしまうのではないかと。石山はスポーツが盛んな地域なので、石山南小学校の跡活用は、青少年と大人の運動の場を確保できるような方策を検討してほしい。
- また少し違う観点になるが、石山中央保育園を移転できればいいのではないかと。駐車場や園庭を広く確保できるし、安全面・教育面から見てもよいのではないかと。（平成 29 年 2 月 メール）
- 母校の名前がなくなることに寂しさはある。子どもたちのために、どうしても新しい校名が必要であるなら、せめて石山地域の学校であることがわかるような校名にすべきと思う。
- 校名が決まらなければ検討できないことがたくさんあると思う。そのためにも、ある程度の期限を決めて検討すべきではないか。
- 校名についての検討経過や、今後の方向性について、地域に説明する場を設けるべきではないか。そういった場がなければ、地域には状況がなかなか浸透しないのではないかと。
- 新設校に現在の学校の記念品などを展示する際は、各校の記念品にはこだわらず、「石山地域の歴史」を展示するような場にしてはどうか。（平成 29 年 2 月 面談）

## 検討事項

### ◆今後の校名検討について

今後の校名検討について、前回の部会での意見を踏まえ、事務局から以下のような説明がありました。

＜今後の校名検討について（事務局案）＞



- 今回を含め3回の部会で絞り込みを行う
- 工事が開始される今年の秋頃までの決定を目指す
- 5月頃を目途に、校名の検討経過等についての説明会を開催する

### ◆道内他市町村の跡活用の事例について

前回部会で要望のあった道内他市町村の跡活用の事例について、まちづくり政策局都市計画部から説明がありました。

- 文部科学省が平成26年度に行った調査では、平成14～25年に全国でおよそ3,800校が閉校しており、そのうち道内は400校以上で全国トップである。
- 道内の閉校数約400校のうち、他市町村で跡活用が行われているのはごく一部となっている。
- 過疎地域の事例が多く、ほとんどがまちおこしの意味も兼ねており、文化・交流・宿泊・福祉等の施設として自治体が運営している。

#### ＜道内他市町村での跡活用の一例＞

- ・美唄市 「アルテピアッツァ美唄」  
芸術作品の展示場（市教育委員会が運営）
- ・三笠市 「ミカサモダンアートミュージアム」  
芸術家の創作・展示の場（市教育委員会が運営）
- ・松前町 「松前町交流の里づくり館」  
体験学習や食育・就業体験の場（町教育委員会が運営）
- ・鷹栖町 「柏の里デイセンター」  
訪問介護等の知的障がい者の福祉施設および就労施設  
（社会福祉法人が運営）

## ◆石山南小学校の跡活用の検討について

「石山南小学校跡活用検討業務」について、まちづくり政策局都市計画部から中間報告がありました。

### <石山南小学校区の現状調査>

#### ①人口推移

平成27年4月時点で人口は約5,400人となっており、10年前の平成17年と比較すると約7%減少している。高齢人口（65歳以上）の割合は約33%であり、全市平均と比べて高い状況となっている。

#### ②地価推移

10年前と比較すると7割程度まで下落している。真駒内地域と比較すると、真駒内は8割にとどまっており、石山南小学校の周辺地域に比べて下落が緩やかである。

#### ③施設立地状況

- ・商業施設の2分の1が飲食店で、その多くは国道沿線に集中している
- ・それ以外の地域は基本的には住宅街となっている
- ・共同住宅も見られるが、空き室が多く見られる
- ・福祉施設が点在している
- ・石山南小学校の校舎は国道と高低差や距離があり、利用しにくい

### <事業者へのヒアリング>

14の事業者から事業展開の可能性をヒアリングした。「健康づくり」「医療・福祉」「住宅」「商業」「教育・文化」のジャンルに分けて聴取したが、回答は芳しくなかった。今後の展開として、高齢者向けの事業や住宅・商業等のジャンルが、状況によっては新規展開の可能性が残っていることを示唆された。

## 委員意見など

### ◆今後の校名検討について

委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

- 石山小学校の校舎を建て替えるだけ、と認識している人は依然として多いように感じる。
- 石山地域に新しい学校ができる、という取組なのだから、新設校が開校してから、「校名が変わるなんて知らなかった」「母校がなくなるのは納得がいかない」というような声が出てきたり、わだかまりが残ってしまうことは避けたい。
- 地域や同窓会など、古くから学校を支えてくれた方たちからも要望があるようだし、説明会を開催して、校名を決定する前に、再度部会としての検討経過や方向を周知する必要があるのではないか。
- 今までの検討を含め、教育委員会で校名に関する説明会を開催してほしい。
- 検討スケジュールについては、概ね事務局案のとおりでいいのではないか。工事の関係もあるので、今回を含め3回程度の部会で校名を決定することでよいのではないか。

◆校名案について  
各委員より意見

応募のあった全 222 案の中から、各委員より下記のとおりご意見がありました。

※ 五十音順

校名案	意見
石切山小学校	地域の歴史を引き継ぎながら、子どもたちが未来を「切」り開いていけるように。校名について語るときに、子どもたちは、自然にこの地域の「歴史」「文化」「自然環境」について誇りをもって話すことができる。
いしやま小学校	まちセンや児童会館と並んで違和感のない校名にしたい。今の歴史を子どもたちに引き継ぐことが重要だと考える。
石山あいさつ通り 小学校	人間関係の始まりはあいさつであり、校名にすることで身に付くのではないか。また、小学校の前の通りの名前であるのでわかりやすいのではないか。
石山青葉小学校	(石山緑小学校なども同様だが) 校名に色が入ることで、子どもたちも様々なイメージを膨らませ、新しい学校生活を送ることができるのではないか。
石山中央小学校	地理的にも石山の中心であるし、新しい学校にはまちセンや児童会館も複合化されるので、そういった意味でも地域の中心となってほしい。地域の中心として子どもたちに活躍してほしい。
石山軟石小学校 (石山なんせき)	両校の「南」と「石」から「なんせき」と読ませるのがいい。応募理由の「柔『軟』な思考と強い意志(石)を持った子どもに育ててほしい」というのに非常に共感した。軟石は天皇からお言葉を頂戴した逸話もあり、ふさわしいのではないか。軟石で栄えた町であり、歴史がある。
石山二葉小学校	大事な石山小と石山南小を種にして、新しい小学校が二葉、新芽として芽生えてほしい。子どもたちの仲良くなりたいたいという気持ちも込められている。
石山緑小学校	児童応募数が最も多い。子どもファーストで考えた結果。響きも耳馴染みがよいし、老若男女親しみやすいのではないか。自然の多い石山にふさわしく、落ち着いた学校にできるのではないか。地域もこの石山の自然、緑を誇りに思っている。
石山未来小学校 (石山みらい)	歴史を大事にしながらも、未来を向いて歩む意志を持てるような校名にしたい。子どもたちが仲良く手をつないで未来に歩いていけるような校名にしたい。石山の未来を子どもたちに託す思いを込めた校名と感じた。
石山緑地小学校	他地域から来た人がすぐにわかるような名前であり、「緑」色も入っている。
新石山小学校	石山の新しい小学校で、非常にわかりやすいのではないか。

- 校名については、やはり「石山地域の小学校だ」とわかるような名前がいいのではないかな。
- 個人的には、「石山」を冠した学校名になればいいと思う。
- 新しい学校なのだから、子どもたちが少しでも前向きになれるような、新しいイメージを持って進めていってほしい。
- 両校の歴史が終わるとは捉えておらず、石山地域の歴史の1ページとしてつながっていくと考えている。その中で、新設校の子どもたちは新たな歴史を刻んでくれると信じている。そういった思いで校名を決めていきたい。
- 次回以降は、意見のあった校名案をもとに、さらに絞り込みをしていけばいいのではないかな。

## ◆石山南小学校の跡活用について

- 校舎をすべて解体し新たに施設を建設したような事例は、市内にあるのか。

### (まちづくり政策局回答)

厚別区のもみじ台地域で、売却された数年後に、買主が新たに施設を新築した事例等があります。

- もし地域で管理することになるならば、あまりにも広い土地だと感じている。地域からの要望が強い体育館を残して、施設の一部を借りて運営することや市からの補助金等は想定されているのか。

### (まちづくり政策局回答)

現時点で、そのような補助も含めて札幌市の担当部局から公共として活用する意思は出ておりません。ただし、「ぜひ体育館を」という要望は様々な方から伺っておりますので、こういった形・方法であれば実現の可能性が出てくるかも含め、検討している段階です。

- 真駒内地域の「まこまる」にある屋内外で子どもが地域と関わりながら遊べる施設は、運営が良好だと聞いたことがある。そういった施設が跡活用で求められる可能性もあるのではないかな。
- 以前説明のあったもみじ台地域のように、すべて売却して、その事業者が地域に貢献・連携という形で集会所や体育館などを運営してくれるのが一番リスクの少ない方法に感じる。
- 調査業務などが終了して、跡活用について検討する、となった場合は、ワークショップを開催するなど、地域の知恵を借りて、地域全体で協力して検討していく必要があると思う。
- 避難場所であることも踏まえた検討をしてほしいと思う。
- 子どもたちが安心して遊べる場は体育館なのではないかと思う。これからは様々なスポーツに取り組んでいけるように検討していきたい。
- 現在の施設すべてを地域で活用というのは、やはり大きすぎるというのも理解できた。委託調査の報告も待ちつつ、検討していきたい。

## 決定事項

第 10 回石山部会では以下の方針を確認しました。

今回意見のあった校名案をもとに次回以降も検討を進めていく。

新設校の工事が開始される今年秋までに、校名を決定する。

校名検討にあたっては、教育委員会で説明会を開催し、部会のこれまでの検討や方向性について地域に示す機会を設ける。

## 事務局からの連絡

教育委員会では、これまでの部会での検討を踏まえ、下記の日程で「校名検討に関する説明会」を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

### ■ 石山地区における校名検討に関する説明会 ■

日時：平成 29 年 5 月 20 日（土曜日） 午前 10 時～

場所：石山会館（石山まちづくりセンター）2 階 大ホール  
石山 2 条 2 丁目 8-19

内容：新設校に「新しい校名」をつけるに至った経緯について  
校名案の応募状況について  
これからの部会での校名検討について

※ 駐車スペースが限られておりますので、自家用車での来場はご遠慮くださいますよう、  
お願い致します。

## 第 11 回の石山部会 について

第 11 回の石山部会は、引き続き新設校の校名及び跡活用の検討を議題とし、6 月頃の開催を予定しています。

### ■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局  
札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）  
〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 2 丁目 S T V 北 2 条ビル  
T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837  
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載します。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>